る。八田知家の九子九郎左衞門尉知氏始めて田中の地頭となり、田中氏と稱した。二世知維、三世時綱、四世宗繼相次で地頭となり、五世の孫三郎隆繼に至り高師直に黨して終に亡滅した。

引松　田中寺引松にある。傳說に承久三年日枝神社創建の際、近江國唐崎松の實生を移植したので引松の名がある。又一葉なれば一葉松ともいふ。或人の歌に『筑波根の常磐に榮ゆ一葉松いく十返りの花や咲きけん』數百年の星霜を經たる喬木も、明治十三年の暴風に吹き折られて今は其の分種一株を殘すのみ。

水守城趾　下妻街道を西に行けば、弓手の岡に老樹欝蒼たる一叢がある、即ち水守城趾で、櫻川を挾んで北條多氣城と對峙したものである。將門記に『水守營と稱し貞盛の子平維幹此處に築きて水守大夫といふ』とある。

上郷村

長峰城址　大字上原春日神社の北方にあり、常總鐵道石下驛より一里、文明十一年豐田四郎將軍平治基の叔父長峰將監正次の築城で小貝川を俯瞰する要害の地である。

金村台　三妻驛より一里大字金村にある。天正元年下妻城主多賀谷氏が豐田氏を攻めた時、小田治親豐田氏を援けて奮戰した古戰場である。今猶田甫の間古器物を發掘することがある。

別雷神社　小貝川の東岸金林臺下約五町の地にある。朱雀天皇の御宇承平元年領主豐田氏が靈夢に感じて西京加茂別雷神の分靈を勸請したものである。社格は鄉社境内に竹垣代官の碑がある。

竹垣君德政之碑　竹垣翁諱は立溫、字は叔恭、三右衛と云つた。寛保元年江戸小川町に生れ、後郡官として北越及び攝河播三州に莅み治績大に見るべきものがあつた。寛政五年徵されて江戸に歸り、更に房總常毛の四州の郡官となり、殊に本郡筑波及び野州芳賀の二郡に在つて仁政を施した。本村大字角田に其陣屋が在つて殖產の道を講じ、興業の法を勸めた。碑文の一節に『民愛服者猶子之於父母』とあるを見ても如何に郡民に愛敬せられたかゞ窺はれる。

眞瀨村

船繋松　大字眞瀨字中津の田圃の一隅に一小丘あり、丘上に一大老松が蟠屈してゐる、往古此邊一帶渺漠たる大湖をなし、遠く牛久沼に連なつたもので、多賀大膳が岡見、栗林の諸城を攻むる時戰舸を此松に繋いたによつて此名を得たといふ。

高須山永興寺　十一面觀音を安置する。天台宗の僧名室傳宗和尚の開山で初め字高城寺に堂宇を建立したが其地が鬼門に當る爲め成就せず、中古殆と荒廢に歸したが後高須山に移して堂宇を再建し、曹洞宗に更めて以來三百七十余年、法燈常に輝いてゐる。

福岡村

福岡堰　關東三大堰の第一と稱せらる。本村地先、北方眞瀨村境の近くにある。三百年前代官伊奈平十郎が起工したもので、谷原領其他四千二百町歩に灌漑してゐる。從來木造であつたのを、大正十年より三年間に亘つて大工事を起し、現在の鐵筋混凝土に改築した。實に工費十五萬を投じたもので地方稀れに觀る

偉觀である。

十和村

谷原糯　一名太郎兵衛糯ともいふ。代官伊奈平十郎谷原領開墾の際、崎玉縣越ケ谷より良種を齎らして試作せしものである。初め十和地方に栽培したが、年を經るに從つて谷原領一帶の地に栽培せらるるに至つた。谷原糯の名已に安政年間江戸神田市場を壓したることあり、更に明治初年東京正米品評會に於て優等賞を得て一層聲價を高むるに至つた。

華藏院　天台宗の古刹で大字田にある。維新前の朱印地十五石、本尊阿彌陀佛は僧惠心の作といふ。檀家は福岡十和の十大字に跨つて五百戸を有してをる。

長崎村

聖德寺　聖德太子の開山と傳ふ。天慶年間將門反逆を企てた時、誼寺に敕して調伏せしめられたが、當寺も亦其一である。降つて貞永壬辰の歳親鸞上人關東教化の際、太子建立の靈地なるの故に、當寺に滯錫せられたこと一百日、後多谷氏の兵亂に堂宇烏有に歸したが再建成り、慶應二年再度の火災に堂宇また燒失した。今の本堂は明治四十年の建築である。

鹿島村

鐵火松　大字檜戸に鹿島神社がある。古來世俗の尊信厚く、殊に慶長三年二月大房藤十郎檢地の時、今の長崎の地に於て、常總の國境に付いて爭論起り、結果神裁を鹿島神社に仰ぐことゝした。湯釜祭を行ひ決裁の結果は檜戸の勝利となり之を記念する爲松を植えて鐵火松と呼んだ。蓋し双方の代表者灼熱せる鐵

棒を握ると否とに據つて曲直を判じたのである。

谷井田村

間宮林藏墓　近世の一奇傑間宮林藏の墓は大字上平柳專稱寺に在る。縣道より西南二十五町、林藏字は倫宗、天資穎敏算數の理に長じ幼時嬉戯するに竹竿を以て樹木の長短、河流の深淺等を測るを樂みにしたといふ。文化年中幕命を奉じて單身樺太探險の壯圖に出たことは世上皆之を知る所、當主正倫氏は之の養孫である。

久賀村

貝塚　東栗山と隣村大字神生の接する邊に在り、古代住民の遺物を多く發見する。上古此地方は霞ヶ、浦牛久、印旛、手賀の沼湖皆連接した所で利根、小貝の

諸川の下流は即ち湖心の殘れるものである。牛久沼に臨めるこの塚貝は上古の大湖畔にありて、遠くは銚子附近の余山貝塚、近くは稻敷郡の諸貝塚との間に來往ありしものなりといふ。人類考古學上の實驗地として有名てある。

板橋村

不動院　大同年中弘法大師東北敎化の際錫を此地に留め、不動明王並に兩童子を彫刻して婦女子の爲に求子安產を祈念せられたものと傳ふ。大字原新田御聖塚は其遺蹟で二間四面の小堂宇であつたのを、中興の住持祥海阿闍梨が康曆年中七堂伽藍を建立して頗る輪奐の美を極めたが、嘉吉三年及天正年間再度の兵火に罹つて荒廢に歸したが、更に文祿年中高僧靈雲阿闍梨、領主信徒と相謀り聖域を現在の地に移し佛堂を建立された。現存の本堂及び樓門はそれである。

大正四年八月國寶に指定された。

岡田君功德碑　不動院本堂の北側にある。岡田寒泉は幕府の小普請及西丸書院番を勤められた善富の第二子で元文五年十一月に生る。性明朗俊邁、才文武を兼ね旁ら醫學に通じ和歌を善くしたといふ。寛政六年代官に任ぜられ筑波外六郡を管することとなつた。風俗を正し荒蕪を開き、貯蓄を勧め、生兒補育の費を給して人口の增殖を圖つた。蓋し竹垣、伊奈兩代官と共に本郡開發の大恩人である。

小張村

小張城址　大字小張城山にあり、俗に御殿址といふ、天正年中小田氏の臣只越全久の居城であつたが、仝十四年多賀谷重經の陷る所となり、後松下重綱の居城となつたが元和二年下野烏山に遷るに及んで城は遂に廢せられた。

谷田部町

中村勸農衛　竹垣、伊奈、岡田三代官と共に地方開發の恩人として其功績の滅すべからざる者に中村勸農衛がある。茂木（谷田部）藩士にして細川侯に重用せられ、二宮尊德の報德敎を奉じて荒廢復興に盡瘁された。殊に『さとし草』を著はし、嬰兒壓殺の罪惡を諷したる繪と共に之を各戸に配布し、以て墮胎の惡風を戒めた。

谷田部城址　小田氏の臣岡見主殿の居城であつた。元龜元年下妻多賀谷政經之を陷れて弟經伯を居らしめたが、天正八年北條氏照等の攻むる所となり經伯父子は戰歿した。重經大に怒り一舉之を復した。慶長以後茂木細川氏の領有に歸

して。明治維新に及んでゐる。今の郡役所は當時の陣屋である。

島名村

石川温習學校　明治三十七年の創立、修業年限二ヶ年の補習學校である。校主石川唯一氏頗る考古學に趣味を有し、他方に貯金組合を設けて好成績を擧げつゝある。旁ら郡内石器時代の遺物蒐集に努め校内に考古館を附設してある。

葛城村

大白裕　東西相並んで大小白裕の二大字がある。佐々木高綱の裔大形田大膳亮が開墾せる所と傳ふ。大膳亮嘗て鎌倉に住したが戰亂を遁れて此地に來り大小を投じて歸農土着した。當時の館趾大和田山に在り、鎮守鹿島神社は元大和田氏の氏神であつた。

小野川村

高層氣象台　大字館野に在り。常磐線荒川沖驛より一里半、土浦驛より二里半、土浦よりは自働車の來往あり僅に廿五六分にて達す。海拔僅に二十五米突の岡阜であるが長峯の稱呼もある如く、自ら高原の狀をなして高層氣流の觀測に便するものがある。

旭村

辨才天　大字酒丸に在り、其構造三出先造にして、彫刻稍緻を盡し、稚致稈を拔く。蓋し五六百年前の建築ならんといふ。堂宇の周圍には池水を圍らし、石垣を疊み石造の反り橋にも功妙なる彫刻を施してある。近年專門家の鑑定により、數奇者の注目する處となつた。

聖林寺　醫王山と呼ぶ。眞言宗普門寺の末寺である。天文八年僧叡宗の開基で朱印地五石とある。延享元年祝融子の見舞ふ所となつたが同二年再建せられて本堂樓門等現存してゐる。筑波の變殘徒此樓上に隱れたが、土浦藩の爲に全部斬殺されたとの事。

大穗村

若森城址　元龜元年下妻城主多賀谷政經、東方小田氏の所領を攻略し、此地に城ついて部將白井對島守をして守護せしめた。北は北條小田を壓し、南は谷田部城を手に入れて、多賀谷氏の勢力は一時全郡を壓したものである。今の館山は當時の城蹟で土壘塹濠昔を偲ふものがある。近世旗本堀田土佐守正之此處に陣屋を置き、其男讃岐守正高に及んでゐる。明治初年若森縣廳此地に置かれた。

眞壁郡

沿革

本郡は古新治國造の所管に屬してゐたが、大化改新によつて新治郡となる、その後白雉四年新治郡の一部を割いて白壁郡を置く。後延歷三年先帝の諱を避けて眞壁郡と改めた。蓋し之が現郡名の起原である。

地勢・廣袤

常陸の西方に位し、東に筑波山脈連亘した新治西茨城の二郡に界し、西は鬼怒川及舊鬼怒川の川敷を隔てて下總の結城に對す。北は栃木縣芳賀郡及下都賀郡

に界し、南は筑波郡に連り、西南の一角糸繰川を隔てて結城郡に對す。内に櫻、小貝、鬼怒の三川川字形に貫流し南北に三大縱谷をなす。この縱谷は所謂皺曲でなくて、利根流域と共に陷落谷に屬す。この縱谷間に第三期並に第四期層南走し、更に四期の新層を形成してゐる。この故に郡内聚落の發達は高地には散在し、低地には南北に並列するを常とす。面積は約廿四方里、戸數二萬〇三百六十五、人口十一萬四千百十三を有し四町二十七ヶ村に分住す。

郡の主要地

西北の下館町、西南の下妻町、東部の眞壁町を郡の主腦地とする。下館町には郡役所、警察署、稅務署等あり眞壁町、下妻町共にそれ〳〵の中心地となつてゐる。

教育

下館町には縣立高等女學校、組合立商業學校（甲種）があり、眞壁町には縣立農學校（乙種）があり、下妻町には縣立中學校、町立實科女學校がある。小學校は全郡を下館地方、眞壁地方、大村地方、下妻地方、の四部會に分ち尋常小學校六、尋常高等小學校二十九、分教場七、學級數三百五十七、職員三百六十七、兒童一萬九千九百四十六。

交通

鐵道は郡の北部を水戸線が東西に横斷して川島、下館、新治の三驛を設けられ。郡の西部を常總線が南北に縱斷して下妻、大寶、黑子、太田鄉、下館の五驛を設け更に下館より北に眞岡線を出してこゝに下館、折本の二驛を置く下館驛は實に水戸、眞岡、常總三線の十字交叉點として交通の要衝に當る。尙土浦、岩

瀬を通ずる筑波線は郡の東部を南北に縱貫してここに柴尾、眞壁、樺穗、雨引の四驛を置く。又下館町と筑波郡北條間、下館町と眞壁町間には定期自働車の運轉があつて、鐵道網と共に本郡の交通系はよく發達してゐる。縣道は總計十八線を有し、郡内を縱横に開通す。

眞壁石岡線

物　産

本郡の主要物産を擧げると米麥大豆繭生糸梨桃甘藷葉煙草絹織物石材花崗石材土管清酒醬油製麥粉足袋底木綿等で、就中下館町を中心として南部地方の足袋底、關本町上妻川西西大寶各村の梨、大國雨引長讃各村及眞壁町附近の葉煙草五所伊讃太田各村の絹織物（結城紬と稱せられる）樺穗雨引兩村及眞壁町附近の花崗石下館附近の經木眞田、眞壁町柴尾村地方の製粉は特に有名である。

主　要　案　内

水戸線　川島驛

伊讃美原　約五丁、明治大帝の命名されたもので、明治四十年特別大演習の觀兵式を擧行された處、

關本町　南へ約一里十町、梨の名産地

關本城址　南へ約二里余、河内村關館にあり、南朝の忠臣關氏の孤忠を稱へし處源親房亦當時この城にあり

關氏父子の墓　仝上にあり、

鬼怒川　驛西を流るゝ川

下館驛

下館町　郡役所の在る所

中館觀音寺　北へ約廿町天台宗の巨刹、本尊は國寶に指定された。

軍神仁平中佐の墓　西北へ二里余、河内村大字下高田にあり。

新治驛

小栗判官の墓　北へ一里余、新治村井出海老澤にあり。

岩瀬驛

青木堰並に二宮尊德先生碑　西北約一里、大國村大字青木にあり。堰は尊德先生の濟世救民の業績である。

常總線　下妻驛

下妻町　郡南部の町

大寶驛

大寶八幡　縣社、信仰厚く社殿は特別保護建造物である。

いばらき新聞社長の生地　飯村丈三郎氏は上妻村大字黑駒の人。

岡田寒泉の碑　東へ一里余、上野村大字寺上野にあり。

黑子驛

黑子千妙寺　東へ三町、天台宗の關八州奥羽十ヶ國の總本山。

筑波線　紫尾驛

藥王院　桓武天皇の勅願所、東へ約十數町。

眞壁驛

眞壁町　東部の中心地、農學校もある。

傳正寺　法身國師が劇的の動機によつて建てた寺、淺野侯の菩提寺で、東廿町。

淺野長政及仝夫人の墓　傳正寺境内にあり。

眞壁平四郎の墓　仝上、名は法身國師の俗名である。

山の尾　東へ二十町ザクロ石を出す。

樺穂驛

加波山　東北に峠つ靈山である。

雨引驛

雨引山　東北に峠つ靈山である。

雨引觀世音　東北に卅町雨引山の中腹にあり靈驗ある菩薩として參詣者絶えず赤穂義士勝田新左衛門の生家東北へ數町、雨引村本木にあり。

川島驛

關城址　仝驛より南へ二里余り、眞壁郡河内村大字關館にあり。大寶湖に斗出せる三角形の丘阜で、東西南の三面は大寶湖に臨み、此は一帶の土壘を以て耕地に接す。藤原季卿の裔關政家始めて此に城つく。後政祐その子宗政と共に南朝に應じ、北畠親房及守護親王を奉じて奮鬪七年遂に結城氏の陷るる所となり父子枕を並べて南朝に殉す。實に忠君の龜鑑といふことが出來る。明治甲戌の秋三島中洲この地に來り感慨禁ずる能はず、古風一篇を賦す。曰く

南風不競北風競　四海靡然悉響應　獨見東風競邊海　吹起激波々勢勁
誰駕舟來源宗玄　常陽義擧着先鞭　小田城上敵王愾　孤手三年　頽天

其奈狼子多反覆　穢氛滿地芳迹蹙　所賴寶湖水清淨　猶颯餘波々怒流
關城老將忠勇資　迎公奉護湖水涯　德必有隣々城應　三歲久保孤壘危
咄々白河老姦猾　坐擁大兵守巢窟　公爲書促救援　千簡萬扎筆不歇
硯池注盡大湖水　々々或恐爲之竭　援兵不來圍不開　糧盡謀屈城壁頹
魚腹葬盡忠義骨　風波至今帶餘哀　君不聞當時一卷關城書　留在白河
舊城墟　白河之水々漫々　臭名千秋洗不除

かの神皇正統記は親房卿此の城に在りし時その稿を作つたもといはれてゐる。

關氏父子の墓　河内村大字關館字內館にあり、花崗岩五輪塔、高さ五尺許、碑面剝蝕頗る古色を帶び、老榊一株塔後に樹つ。墓側に小山宏撰文の關城の碑がある。慶應三年六月この偉跡の堙滅を恐れて建てたものである。

鬼怒川　川島驛より西へ一町、北より作に奔流す。毛野川或は衣川、又は絹川に作る。下野國鹽谷郡衣沼山衣沼に源を發し東南に流れて先づ結城郡、眞壁郡の境界をなし、次で結城郡を南流して北相馬郡に入り遂に利根川に合流す。舟楫の便、漁獲の利尠からず、上流には鮎の產多く、下流には秋期生鮭の漁獲が多い。東南風には增水甚しけれども亦減水も速い。

關本町　眞壁郡西部の小都會で、川島驛より一里十町、戶數八百二十四、人口四七八八、附近村落に產する梨は皆この地に集まりて各地に移出される。乃ち關本梨と稱し美味と產額の多きを以て遠近に知られてゐる。又原蠶種製造所がある。

伊讃美原　驛より東北へ約數町、眞壁郡伊讃村の西端にある大原野である。明

治四十年日露戰役後第一回の特別大演習を擧行された時その觀兵式場となつた所である。それまでは飯島ヶ原と稱せられてゐたが、仝年十一月十八日　明治天皇陛下より伊讃ヶ原と名を賜はり、即日官報を以て宣布された。伊讃美は勇に通ずるといふ所からの御命名と拜承してゐる。今その中央に行幸記念碑を建てて長くこの光榮を感謝してゐる。汽車に乘りて川島驛を東すれば忽ちにして北方にその碑を望むことが出來る。

伊讃美ヶ原耕地整理　本の伊讃ヶ原を開墾して三百四十餘町歩の水田を作つたものである。

下館驛

下館町　本縣西部の都會で、戸數千八百七十七、人口九千五百〇一人。明治二十一年水戸線の開通と共に下館驛を設けられ、つひで、北に眞岡線を分岐し、更に南は常總鐵道（取手で常磐線に接續する）の起點となつて、ここに鐵道は十字に交叉することとなり、この他水戸街道、東京街道、取手街道、銚子街道眞壁街道、眞岡街道等の道路四通八達して、名實共に縣西に於ける交通、運輸商業の中心地となつてゐる。從つて商業、工業は日を追うて隆盛に赴き、足袋底、製油、經木眞田、清酒、醬油製糸等の產多く、取引亦活潑にして縣西は勿論遠く栃木の東部までをもその販路としてゐる。眞壁郡役所の所在地で、縣立高等女學校、組合立商業學校、縣是製糸株式會社等がある。

縣立高等女學校は明治四十四年町立眞壁郡下館實科高等女學校として創立し、大正九年高等女學校に組織を變更して郡立に移管し、仝じく十一年四月縣立に

移管となり、ついで校地を町の北部に變へ新校舍を建設す。定員六百人、現在は四百四人を八學級に組織す。蓋しその地は明治四十年陸軍特別大演習の際大宴會場となりて明治大帝の臨幸された靈地である。今校庭の中央にその記念碑が建てられてある。

商業學校は大正十二年四月の創立にかゝるもので組合立の甲種程度のものである。定員三百人、現在は百〇七人、四學級に組織す。

軍神仁平中佐の墓　下館驛より東北に去る二里余、河間村大字下高田にあり。中佐名は宣旬、陸軍歩兵中佐從六位勳四等功三級である。文久二年八月に生る、明治二十一年七月歩兵少尉に任官、二十八年には征清の役に從つて功あり、三十七年日露の役起るや、第十六聯隊第一大隊長として出征第一軍に參加す。鴨綠江の戰、摺鉢山、九連城の占領、鳳凰城の略取等に方つてその功全軍に冠たりと稱せらる。次で第二軍との連絡上仁平支隊を編成せられ、よく任務を全うして前進をつゞけ、頑强なる大敵を奮擊して遂に黑英臺を占領す。前后十晝夜に亘つた遼陽の大激戰、沙河大合戰に於ける勇敢なる行動は敵兵數回の大逆襲に對し、全滅的大打擊を與へ以て第一軍の作戰を容易ならしめた。殊に揚城塞附近の戰役に於ては頗る苦戰に陷り、中佐自ら陣頭に立ちて士卒を鼓舞し、奮鬪遂に之を擊退した。されど後に仁平山と稱せられる揚塞東方の獨立高地は容易に之を奪取することが出來なかつた。この高地は所謂陣地の鎖鑰であつてこれを奪取すると否とは實に彼我勝敗の岐れる所である。こゝに於て中佐は意を決し十月十三日敵の逆襲に先立ちてこの高地を占領して機先を制せんとし、猛

進攻擊を遂行し遂に敵を去る二百歩の点に達し、將に一躍敵陣を突かんとせし時、左右に優勢なる敵を受け大隊の將卒半ば死傷し惡戰苦闘言語に絶す。中佐は自ら陣頭に立つて戰線を指揮する折しも敵彈飛來中佐の胸部を貫通せしかば劍を握りたるまま敵を睥睨して斃れた。その狀實に悲を極め、慘を極めた、かくて中佐は敵を擊壞するに先立ちて仆れたが我軍をしてこの戰に勝利を得しめたのは全く中佐の不屈不撓の攻擊を遂行したのによる。戰勝ちて後この高地に仁平山と命名して中佐の戰功を永遠に憧憬感謝する記念とした。第一軍司令官黑木大將は即日感狀を仁平第一大隊に授けられ、又同日附を以て步兵中佐に昇任、功三級金鵄勳章及勳四等旭日小綬章を授けらる。爾來海に於ける軍神廣瀨中佐に對して陸に於ける軍神仁平中佐と稱せられた。嗚呼壯烈無雙の偉勳を殘して一死君國に盡し死して護國の神となつた中佐に對し万斛の感涙無きものがあらうか。三十七年十一月二十七日勅使參向の下に越後新發田に於て葬儀執行仝年十二月二十一日鄕里大日山に葬る。今祠を建てて仁平神社と稱してその英靈を祀る。傍に陸軍大將男爵西寛次郎閣下撰文の陸軍步兵中佐仁平君碑あり、以て英名偉勳を千古に垂る。

中館觀音寺　下館驛を去る北に二十町、中村大字中館にあり。天台宗の古刹である。本尊は阿彌陀如來で、延喜元年藤原中納言高房卿時平の讒に合ひ常陸國伊佐庄に流刑されし當時寺に歸依し守本尊とされた。後秀宗宗村を經て朝宗に至り祖先高房の守本尊及累代主將の亡靈菩提のために本堂を造營す、時に承元年である。これを當寺の開基とする。本堂の南數町に觀音堂がある。四民の

信仰厚くその像は今國寶に指定されてある。

新治驛

小栗判官の墓　眞壁郡新治村大字井出海老澤太陽寺址にあり、驛を北に去ること一里余り。寺内に花崗石九層の大塔が立つてゐる。碑面の文字は剝落して見ることが出來ないが、小栗判官滿重の墓であると傳へられてゐる。周圍に小碑が十基ある。これは十人殿原の碑である。　太陽寺は今歸農して舊址に住み舊寶物を藏してゐる。滿重の位牌には、

天照院殿前金井太陽宗元大居士

應永三十三年三月十六日卒

と記されてある。尙小栗判官代助重の遺物として鬼鹿毛の鐵轡及守本尊と稱する

る彌陀八幡一体。（丈二寸八分古銅の立像で兜佛の如し）と照手姫の持佛と傳へる。正觀音●（木像丈一尺一寸）一体と藏す。

岩瀨驛

青木堰並に二宮尊德先生碑　岩瀨驛から西南約一里、眞壁郡大國村大字青木にあり。この村かつて大いに疲弊し村民その貧に苦しんで、他鄉に赴かんとまで考へてゐた時、尊德先生この村に來り、村民に各唐鍬一丁つゞを與へて荒蕪の土地を開墾させた。そしてこの疲弊が櫻川の氾濫によつて田畑を荒廢させるに基づくを救はんといろ〳〵と工夫された。そこで設計を立てられて壞れたる用水堰を修繕してよくその氾濫を防ぎ安全に耕作し得られるやうにした。先生のこの業に從ふや身は青木に居らず、遠く栃木縣芳賀郡より通勤して勵精大に勤

めた。村民は朝早くより起き相共に働きたれども、先生の物部よりこゝに來るや、常に村民よりも早かつたといはれてゐる。これを以つても先生の勵精振が想像される。村民は深くその德に感じ、勤勉よく業を勵んだので、先の貧村は忽ちに今日の富村となつた。こゝに於て村民は先生の宏大な恩德に感謝し、永くその功德を欽仰しこれを傳へんとして碑を建てた。その篆額には報德先生碑と書いてある。

下　妻　驛

下妻町　戸數一千〇八九、人口五千二百五十二人、舊多賀谷氏の城址である。縣立中學校、町立實科女學校、下妻區裁判所、水戸刑務所下妻出張所がある。中學校は明治三十年水戸尋常中學校分校として創立、三十三年獨立して本校となる。生徒六百二十二人、十四學級に分つ、實科高等女學校は明治四十年の創立である。三學級百四十七人を收容す。

大　寶　驛

縣社大寶八幡神社　驛より南に八町、大寶湖畔に鎭坐す。大寶元年藤原時忠宇佐八幡宮を勸請す。源義家、全賴朝等の信仰があつた。本殿は桃山時代の建物で、流れ造といはれ、今特別保護建造物となつてゐる。西に大寶沼を脚下にかまへ、東筑波山脈を眺めて風景の地、殊に秋菊花の節は遠近參詣の者の堵の如く大寶の園子は地方の一名物として玩味される。

黑　子　驛

黑子〒妙寺　黑子村大字黑子にあつて、驛から東には五町ばかり。慈覺大師の

開基にかゝり、天台宗延暦寺末關八州、奥羽十ケ國の總本山である、本尊は釋迦如來で、大周然の作にかゝり、嵯峨清源院釋迦像と一對のもので立像丈四尺檀檀の木を以て彫刻され。護良親王の尊奉されたものゝ。今は國寶となつてゐる。

岡田寒泉の碑　黒子驛を東へ一里餘り、眞壁郡上野村大字寺上野鹿島神社の境内にあり。碑は高さ四尺八寸ばかり、天保四年春三月の建設にかゝる。碑文は筑波郡板橋村の岡田寒泉先生碑と仝じ、仝先生の事蹟はその部にゆづる。

いばらぎ新聞社長飯村丈三郎氏の出地　仝氏は上妻村大字黒駒の人、丈五郎氏の長男、少壯出でて縣會議員となり、ついで衆議院議員となり大に縣政國政に貢獻す。後政界を退きて實業家となり、いばらき新聞社を起して社會の木鐸となり、育才會を創めて後進の誘掖に努む、現に在京縣人會長となつてゐる。そして教育と社會奉仕に晩年を捧げてゐる。

椎尾驛

藥王院　驛より東へ十數町、紫尾村大字椎尾の椎尾山腹にあり。桓武天皇の勅に依り延歴元年四月八日最仙上人の開基せし處である。上人は當縣關本の人、夙に佛門に入りて勤行三昧に入り、定惠兼備す。偶々上人の在す洞より紫雲たなびきてその光禁闕に及ぶ。帝之を奇とし侍臣に勅してその源を尋ねしめ給ふ勅使光を便りに尋ねて當山南谷椎の洞に至り、上人に遇ひて修法の意を問ふ。上人答いて唯天下泰平國土安穩を祈る外他事なしと言ふ。勅使上人を伴なひて復奏す、帝叡感あらせられて、本尊として天笠目蓋長者の持佛であつた内裏の持佛藥師瑠璃光如來の尊像を賜はり、七堂伽藍を建立せしめて勅願所となし給

ふ。上人は法相宗であつたが延歴二十年傳敎大師天台宗に改め、天長二年慈覺大師之を再興し法燈愈〻明を增し香煙益〻馨し後正保三年四月廿九日野火の災に罹り本尊を除いて盡く烏有に歸す、ついで延寶八年十月堂塔の再建成る。寶物としては傳敎大師の作なる赤栴檀藥師如來と、藥師十二大將並に因達羅大將等がある。その外慈覺大師の作なる藥師堂、三重塔、樓門、鐘樓、念佛堂、護法堂等がある。

眞壁驛

眞壁町　眞壁郡東部の都會で、戸數千三百二十、人口八千百九十一人、東及南は筑波山●加波山●足尾山の連山を以て取囲まれ山氣町に滿ちて淸爽の感じがある。町の大部分は農業を營みて商工業之につぐ。筑波鐵道が開通してからは東一帶の山から切出す花崗岩の石材を移出するやうになつた。縣立農學校がある。明治四十二年町立として創設し、仝四十五年郡立となり、大正十二年四月縣立に移管、乙種程度で修業三ヶ年。六學級三百七人を收容す。

傳正寺　眞壁郡樺穗村大字櫻井天目山の中腹にあり、眞壁驛を東に去ること約十二町ばかり。文永五年八月眞壁城主眞壁安藝守の創立で、法身國師性西禪師の開山にかゝる。安藝守のこの寺を創立するに就ては劇的の由來がある、それは次の眞壁平四郎の所で述べることにする。この寺始めは金城峯天目山照明寺と稱して臨濟宗であつたが、文永十年二月國師入寂後康正二年に相州早川海藏寺の住持安この寺に來てから曹洞宗總特寺派となり、その後良雄大圓和尙の代に至り淺野彈正長政の歸依する所となり、慶長十六年四月歿するに及んで當

寺に葬むる。法號を傳正院殿功山道忠大居士と號す。これから傳正寺と改稱し淺野家の菩提所と定め大檀越となる。長政夫人の墓も當寺内にあり。

淺野長政及仝夫人の墓　傳正寺境内にあり、本堂の北一段高き所に靈廟を設く廟中から高さ六尺許の五輪塔が立つてゐる。子長重の墓もその側にあつて廟の構造は略長政のに似てゐる。

眞壁平四郎の墓　仝しく傳正寺内にあり。平四郎は傳正寺の開山法身國師の俗名である。平四郎は眞壁郡猫島村の人、兩親子の無いのを憂へて虛空歳菩薩に祈る。母一夜劍を呑むと夢みて孕み一子を生む、これが平四郎である。後出でて眞壁城主眞壁安藝守に仕へた。安藝守或る時寵臣と微行して觀雪の宴を開く平四郎殿に從つて亭の入口に待つ。その間主人の木履を己の懷中に入れて温めてゐた。間も無く安藝守が歸城しようとして平四郎の捧げる木履をはかうとすると雪の日の木履は意外に温い。安藝守は平四郎の心遣を察することが出來ないで大に怒つて曰く、『下僕余が木履を尻に敷けり』と。乃ち木履を採つて平四郎の額を破る。平四郎ここに奮起して、その木履を懷にしたまま京都に上り、建仁寺に足を止めて剃髪染衣の身となり修業大に勤めた。心に解怠ある時は先の木履を出して之を制し自ら勵まして寸時も撓まない。後支那に入りて抗州鹽安府天目山經山寺に掛錫し無準禪師に謁してその鐃下に留まること前後九年、終に佛法の奥義に達し、歸朝して松島に來り、瑞巖寺の法身窟に靜止勤行を勵む。時に北條時頼、最明寺道崇と號して雲水行脚してここに來りその悟道の深きに歸依した。次で瑞巖寺に伽藍を建立してこれが外護の菩薩となり、又龜山

天皇に差上して法身國師の勅宣を賜はつた、國師瑞巖寺にあること三年再び雲水傳道の途に上り、めぐつて故郷眞壁郡白井村光明寺に巡錫す。眞壁安藝守その德を聞き國師を請じて教を問ふ。實に先の主從、君僕座を仝じうしたのである、國師ば徐ろに懷中から木履を出して已は先の平四郎であること明し、先年觀雪の宴の時に木履の溫をであつた眞相を語り、且つ當時の恩義を謝した。安藝守は大に驚き身體の惜置に迷ふと共にその罪を詫びた。これから両人の交誼愈深く、安藝守の國師を尊信することは益々厚くなつた。遂に安藝守はその弟子となつて道無と號し、一宇を建立して國師をその開山とした。その山形支那の經山に似てゐるのでこれを天目山と名づけた。山内の碑面に國師の喝が刻れてある。それには、

一上經山弄風光　却來座天目道場　法身覺了無一物　咄是眞壁平四郎

とある。世の中でいふ『どつこい眞壁の傳正寺』といふのはこの末句の轉じたものである。文永十年二月一日八十五才で入寂した。そして寺内に之を葬る。

山の尾　眞壁驛より東へ二十町余り、花崗岩のベクマタイドをなしてゐる所でザクロ石を出す。

樺　穂　驛

樺穂村産の石材　驛前には花崗石の石材が一面に積まれてある。これは皆本村の東に峙の一帶の山から切出されるもので、實に當村無盡の寶庫である。

加波山　加波山に登るものはこの驛より下りるのが一番よい。加波山は海拔二千三百三十八尺、新治、眞壁の兩郡に跨る、全山岩石悉く露出し、奇石怪岩多

く嶮峻攀躋に困難な所が多い。山中に加波山三技祇神社を祀る。遠近の宗敬者多く、登山する者絶えず、殊に夏季行者の先達の下に禪定をする者が頗る多い。

雨引驛

雨引村の産物　東山一帶から出る無盡の花崗石とその麓に栽培される桃である。

雨引山　とも天彦山ともいつたが、雨乞のことから雨を引くといふ意味で雨引山といはれるに至つた。雨引村本木から登るがよい、海拔千三百八十六尺、老杉古松を交へて繁茂し、幽邃掬すべき仙境である中腹に觀音堂がある。

雨引觀世音　眞壁郡雨　村大字本木にある樂法寺内にあり。驛より東北に方り約三十町、雨山の中腹にあり。樂法寺は用明天皇の御宇梁の法輪獨守居士渡來しこの地に道場を草創したと傳へられてゐる。推古天皇御惱平癒の祈願感應速かなのにより堂塔伽藍を御造營あらせられ永く勅願所となされた。その後興廢盛衰を經て今日に至る。眞言宗豊山派に屬し、堂塔の宏壯は地方稀に見る所である。寺内に觀音堂があつて延命觀世音を安置する所謂雨引の觀音樣である。堂は明治四十一年九月に合併されたもので、像は木造觀世音菩薩立像（寺傳延命觀世音像）附前立像一軀で、刀法極めて非凡、明治四十四年國寶に指定された。

赤穗義士勝田新左衛門の家並墓碣　新左衛門が赤穗義士四十七士の一人として驍勇を走らせ、武士の龜鑑として仰がれてゐるのは世間周知のことである。新左衛門は名を武堯といひ、祖先以來代々雨引村に住んでゐたが、正保の頃、父出でて笠間候淺野氏に仕ふ。幾くもなく藩候封を赤穗に轉じたので又從つて仕ふ。新左衛門大石良雄の擧に加はり、元祿十五年十二月十四日吉良義央の邸を

襲ひ、舊主淺野長矩のためにその讐を復し、首を携へて泉岳寺に詣り、長矩の靈を祭りて靜かに罪を待つ。幕府即是を細川、松平、水野、毛利の四家に預けられ、武堯は毛利甲斐守の邸に入る、ついで十六年二月二日良雄等と共に死を賜ふ、時に年二十四才。泉岳寺長矩の墓側に葬る。謚して及量霞劍信士といふ。碑を雨引山樂法寺下の坂路を上り、黑門に達せんとする左側の小墓地内にあり。碑の樣子は略泉岳寺のと同じくして、『及量霞劍信士　靈位』元祿十五年壬午年二月四日行年二十四、と刻んである。その年は十六年二月二日の誤りである。ことは明かである。武堯の死後母は二男新兵衛を伴ひて雨引村に歸農す。その子孫今も大字本木に住す。家に新左衛門討入姿の木像並に幾多の遺物を藏す。その像は江戸關濫の作であるといふ。

結城郡

沿革

神武天皇即位の五年、天富命乃日鷲命の孫を率ひ肥沃の地を阿波に求め、穀麻の種を植ゑしむ。天富命更に阿波の齋部の一部を率ひて沃壤を東方に求め、麻穀の種を下さしめしに良麻を産す。故にこの地に名づけて總といひ、穀の木の繁茂する處といふので名づけて木綿木（ゆふき）と名づけた。之が結城の名の起りである。後孝德天皇の大化元年八月總を分けて上下となし、結城國を廢して結城郡となす、下總國結城郡の名ここに始まる。後郡の南部を割いて別に岡

田郡を置き、延喜二十年岡田郡を改めて豐田郡とした。後貞享三年絹西の地を割いて更に岡田郡を置いて結城、岡田、豐田の三郡分立となつた。明治維新後縣郡の廢合頻りに行はれたが明治八年結城、岡田、豐田の三郡は全く茨城縣の管下に入り次で明治二十九年四月一日三郡を合一して現在の結城郡となる。

地勢●廣袤●人口●戸數

北は田川を以て栃木縣下都賀郡に境し、東北は鬼怒川　糸繰川を隔てゝ眞壁郡に對し東方一帶小貝川を以て筑波郡に界す。南は飯沼及毛野川の故道によつて北相馬に接し、西方一帶は飯沼及その地溝によつて猿島郡に對す。面積十七方里弱、舊結城。岡田の地は林野多けれども概ね平坦で、舊豐田の地は豐穰の美田五方里に及ぶ、戸數一萬六千七百〇八、人口九萬八千八百五十七人。

主要地

結城町は北方の、宗道村、石下町は中部の、水海道は南部の中心地である。宗道村に結城郡役所あり。

教育

結城町に町立女子技藝學校。町立農學校（乙種）あり。水海道町に縣立中學校全高等女學校がある。小學校は全郡を水海道部會、石下部會、宗道部會、結城部會の四つに分ち、尋常小學校二、尋常高等小學校二七、分教場五、學級數二百十七、職員數二百九十八、兒童數一萬五千二百九十三。

交通

鐵道の郡内を通ずるものは水戸線及常總線とする。水戸線は小山より東して本

郡に入りて結城驛となり、更に東して眞壁郡に入る。常總線は眞壁郡下館驛より水戸線に岐れて南し眞壁郡の西部を經て結城郡に入り先づ宗道驛に至りついで石下。三妻。中妻。水海道の各驛を經て北相馬郡に入る。自働車の運轉は水海道及猿島郡岩井間、結城及猿島郡境間の二線ありて両郡の連絡を計る。

物　産

物産の主なるもの米●麥●繭●生糸●紬織●木綿●干瓢等で木線は石下地方より、紬織干瓢は結城町地方より。その他は全郡より之を出す。

主要案内

常總線　水海道驛

水海道町　縣立中學校、縣立女學校がある、郡南部の都會

中妻驛

弘經寺　西へ約十二町、淨土宗の古刹で、後奈良天皇の勅額。勅願所の綸旨があるし、又千姫の墓もある。累の墓　西へ六町、怪談絹川の累で有名である。

三妻驛

大生郷の天滿宮　西へ約一里、菅原道眞の遺骨を創祀する所で、北野天滿宮より二十一年先立つて建てられたものである。

滿倉元三大師　西南へ約十五町、德川家光大崎の遺骨を埋む。

石下驛

石下町　郡中部の町。石下綿の産地。

宗道驛●下妻驛

宗道村　郡役所の所在地。西豐田村　下妻驛西　約廿町本縣の模範村である。

水野家累代の墓　結城藩主水野家の墓で、驛より西北へ約二里、山川村大字新宿万松寺にあり。

山川不動尊　仝二里余り山川村大字新宿にあり。

水戸線　結城驛

結城町　郡北部の町、町立農學校、町立女子技藝學校、縣立工業試驗場がある。又結城紬の産地である。

安穩寺　天平寶字年間の創始、結城町にあり。

孝顯寺　結城藩主累代の菩提所。

源翁禪師の墓　結城町字玉岡にあり。禪師は那須野ヶ原の殺生石も化度した人。

結城七郎朝光の墓　結城町稱名寺内にあり。

水戸線　結城驛

結城町　結城郡最北の都會で、戸數二千三〇九。人口一万二千三百七十九、半商半農の土地である。有名な結城紬はこの町から出るのである。町立農學校。町立女子技藝學校、茨城縣工業試驗場がある。又小學校は明治四十年十一月特別大演習の際に十一月十四日より仝二十日まで明治大帝の行在所たるの光榮を有してゐる。この地鎌倉時代に結城七郷朝光の食邑となり、下りて結城秀康に及び、後秀殘哉前福井に轉封するやしたかつて廢城となり、爾來代官の支配地たりしも元祿十三年水野隱岐守勝長の封をこの地にうけてより代々仝氏の居城となりて王政維新に至る。又寺院の多きこと縣下に類なく、有名なるものにても

安藝寺、弘經寺、孝顯寺、妙國寺、華藏寺、乘國寺、稱名寺等を數へることが出來る。右の中にて更に細說すべきものを左にかゝぐ。

町立農學校　乙種程度で修業年限三ヶ年、明治三十年の創立にかゝる、現在三學級生徒數百八十人。　**町立技藝學校**　大正二年五月の創設で修業年限三ヶ年現在は三學級生徒百二十人。目下は小學校の一部をその校舍に充てゝある。

茨城縣工業試驗場

安穩寺　今を去る一千百五十年前天平寶字年間唐土鑑眞和尙第二の徒弟稱蓮律師草創にかゝる。後應安四年三月五日有名なる源翁禪師を請ひて両開山となす。源翁禪師の那須野ヶ原殺生石化度のことあるや後小松天皇の叡感を蒙り。結城山の勅額を賜はる。德川秀康、仝家光等の尊信も厚かつたといはれてゐる。

孝顯寺　永正十二年の開山で、結城藩主代々の菩提所である。

源翁禪師の墓　結城町字玉岡にあり。師は越後國萩村の人、名を心昭、空外と號す。元中三年下野國那須に於て、妖狐化して殺生石となり、衆民を惱ますこと多きを聞き、身を挺して之を化度す。後小松天皇叡感あらせられて禪師の安穩寺に結城山の勅額を賜はり、又大寂院法王能昭禪師の勅號を賜はる。

結城七郎朝光の墓　結城町稱名寺にあり。朝光は藤原秀郷の裔である。養和元年志田義廣亂を作すや、朝光の兄朝政等之を討ちて功あり。功を以て常總兩毛に亘る義廣一族の地を兄弟に賜はる。朝光の結城を食邑としたのはこの時からで、結城を以て氏としたのもこの時からである、元歷、文治の交には平家を討ちて功あり。賴朝の藤原泰衡を陸奥に討つや又從つて功を立つ、これを以て賴

朝の信任を受く。建長六年正月廿四日八十七才を以て卒す。

水海道驛

水海道町　北相馬郡と共に古の下總國に屬し、今は結城郡下に屬してゐる。戸數一千五百、人口約七千人。鬼怒川。小貝川の中間に夾まる。殊に町西を流るゝ鬼怒川は舟揖を通ずること十有餘里に及び東京との間に毎日汽船の往復あるのみならず、常總鐵道開通の首唱地として、この鐵道の開通するや、運輸、交通の便利が急によくなつた。昔平將門が相馬の僞宮を造つた時、相馬郡大井の津を以て京都の大津になぞらへたことが將門記や、今昔物語などに見えるが、その大井の津は思ふにこの町の往昔を指したものであらうと考証されてゐる。從つてこの町は遠く天慶の頃から賑かな所であつたことゝ思はれる。今この町で名高いものを列擧して見よう。

縣立水海道中學校　明治三十三年の創立で、字龜岡町の高地にある。敷地坪數一万二千一坪、學級數十、生徒三百九十、職員は校長以下二十一名である。

縣立水海道高等女學校　もとは御城實科高等女學校と稱し、明治四十四年高等小學校に附設された組合立の女學校であつたが郡制廢止の際(大正一・四)縣に移管されて現在の組織となつた六學級生徒二百九十八人將來四百人を定員とする。

保育園　山中半兵工氏の獨營で、字寶洞宿にある。明治四十二年の創立にかゝり、自宅を以て園に宛て、夫妻協力して幼兒の保育をしてゐる。その熱心。親切は鄕黨人の深謝する所となつてゐる。現在の幼兒數は六十余名である。

中妻驛

弘經寺　豊岡村大字飯沼にあつて、中妻驛より西へ約十二丁。淨土宗鎮西派に隷し、十八檀林の第八位に位する。應永二十一年八月了肇和尚（北條相模守の族、名越右馬允の子）の開山にかゝる。三世曜譽、四世一譽は參内して香衣を賜はり、五世鎭譽の時、雨を祈つて叡感に預かり、後奈良天皇より勅額及勅願所の綸旨を賜はつた。十世了學は將軍德川秀忠の女である千姫（豊臣秀頼の室）の歸依厚く、現在の堂字を再建して功德寺とした。千姫薨するや、遺骸をこの寺域に葬り、碑を建つ。碑面には天樹院殿榮譽源法杉山大姉と刻まれてある。寛文六年丙午二月六日。十一世南譽は勅を奉じて淨敎を禁裡に講じ、常紫衣餘寺不混の綸旨を賜はつた。六十九世洞譽に至り、明治二年二月二十二日再び勅願所の綸旨を賜ひ、十八年十一月一日、古社寺保存法により保存資金一百五十圓を下賜された。惜しいことには三十九年五月十四日火災に遭ひ伽籃記錄烏有に歸し、今わづかに本堂を殘すのみとなつた。

累の墓　怪談絹川の累の墓で、中妻驛の西六丁、大花羽村大字羽生寶藏寺の域内にあると傳へ言ふ、累女は極めて醜婦であつたので、夫與右工門は之を嫌ひ累女が刈豆を背負つて歸る途中、之を絹川の深淵に蹴落して殺した。その後累女の怨靈が夫與右工門に祟つて所謂怪談となつた。後飯沼弘經寺の名僧祐天和尚の法力により怨靈が解脫したとのことである累女の一代記は今法藏寺の藏本となつて殘つてゐる。

三　妻　驛

大生郷天滿宮　驛を西へ去ること約一里、菅原村大字大生郷の西南角飯沼に蒞

める丘阜の上にある。古の常陸下總菅原神社であつて、菅原道眞の遺骨はここに葬られたといはれてゐる。その社傳によると『菅公の第三子三郎景行父道眞公を筑紫に省す、公自ら鏡を採りて自畫像を描き、授けて曰く吾死なば茶毘して遺骨を他郷に葬れと、景行遺言を奉じ文治二年此地に創祀す。朱印三十石、後年郷人更に東方に景行を祀り、三郎天神と稱す』といはれてゐる。舊馬場の先端鳥居所に二面の板碑が道を挾んで立つ、西の碑は殘欠して讀むことが出來ないが、東の碑には、『常陸羽鳥菅原神社之移菅原三郎景行兼茂景茂等相共移從筑波靈地下總豊田郡大生郷常陸下總菅原神社爲菅原道眞郷之菩提供養也常陸介菅原景行所建也菅原三郎景行四十四歳也菅原兼茂三十七歳也菅原景茂三十歳也菅原墓地移從羽鳥定菅原景行常陸羽鳥の靈地墳墓也延長七年二月二十二日』とある。而して筑波の北麓紫尾村大字羽鳥の歌女神社境内の板碑に『延長四年二月二十五日、常陸羽鳥菅原神社爲右菩提供養也菅原景行源護平良兼等共所建也』とある。其北方三丁許りの處に天神塚がある。尚高さ二間東西七間南北五間ばかり。上に一小祠があつて菅公を祀る。碑は元この塚に建つてゐたものを移したらしい。景行常陸介となり、任地に赴くや菅公の遺骨を携へ、此地の勝景に墳域を奠め、大椽源護上總介良兼等の贊助を得てこゝに創祀した。後任滿ちて京に歸るや、二弟と共に東下し、更に大生郷に奉遷し、安樂寺を建てゝ別當とした。思ふに延長四年は天暦元年に北野の創祀に先つこと二十一年、本官追復後三年であるから羽鳥の菅廟は恐らくは我國最古の菅神社なるべく、大生郷と雖も北野創祀の十八年なれば、たとい年代に於ては第二位であつても。遺

骨は尙本殿に秘封されてゐるのを見る時は筑紫の安樂寺は單に遺物を埋葬するに過きずして眞の菅公墳墓の地は大生鄕であるといふことが出來る。

因に菅公の遺骨を負ひ來れる從僕は大貫大學、松崎兵庫の二人で、大貫は鍵元大學と稱して菅廟東馬場先に住し、松崎は大工職となり、現に水海道淵頭に住む。

博士井上哲次郎、菅公事蹟を著し二郎景茂の事を書き偶ま大生鄕碑に一致す。

滿倉元三大師　西南へ約十五町大花羽村字滿倉にある。德川家光元三大崎の遺骨を納めた所。

石下驛

石下町　戸數七百十二。人口四千三百八十三、郡の中央に位し、石下木綿の產を以て有名である。尙本町外六ヶ村聯合耕地整理はその規模の大きいことに於て實に本縣第一と稱せられる。

宗道驛

宗道村　驛より約四丁、結城郡の中央に位し、結城郡役所の所在地である。絹川に沿ひて、德川幕府時代に筑波の西北と江戸との交通の衝に當りし宗道河岸はこの地にある。

下妻驛

水野家累代の墓　結城郡山川村大字新宿万松寺の境內にあり。下妻驛を去る東北二里余。水野家初代の監物忠元公より十一代忠那公に至るまでの墳墓は皆この寺內に存す。忠邦が天保改革の大立物であつたことは周知のことである。

山川不動尊　仝郡仝村大字新宿にあり。下妻より二里余り。本尊は弘法大師の作にかゝり、元は京都東寺内に安置せられたが、平將門之を尊信し、將門東下の際密に携へ來りて守本尊としたと傳へられる。將門陣歿後その臣坂田時行これを山川の外城に隱し、後慶長六年大惠寺を創設してここに安置す。この寺後に大榮寺と改む。

模範村西豊田村　下妻驛より西へ約十町、鬼怒川の架橋を渡つて本村に入る。

【彊域】　縣の西南部に位し、東は鬼怒川を隔てて眞壁郡上妻村及結城郡總上村に對し、西は中結城、下結城の二村と界し、南は安靜、大形の両村と犬牙相交り北は眞壁郡川西村と相隣す。

【地勢】　地は鬼怒川流域に屬し。岡陵池沼等少く、平坦にして沃野に富む。

【交通】　下妻町より古河町に通ずる縣道村の北部を貫き境町に至る路線は大字若より分岐す。村内重要の村道は大正元年以降連年の大改修により其の效用著しく鬼怒川の流域亦舟揖の便あり、常總線下妻驛には鬼怒川橋を經一里余にして達し。水陸運輸の便尠からず。

【廣袤・面積・戸數・人口】　廣袤東西一里十四町南北亦一里十四町にして其面積〇、七七三八方里とす。戸數八百十六戸。人口四千九百〇五人。

【村是の概要】　大正元年に調査を完了しその實行組合を組織して之が遂行に努めて其の效果見るべきもの多い其の大綱は次のやうである。

教育の振興　普通教育振興、實業及補習教育の普及、

産業の奬勵　米麥作改良、牛馬耕の普及、堆肥舍普及綠肥栽培、耕地整理、

桑園及養蠶改良、製茶改良、家蓄家禽の飼養、副業の奬勵、道路改修
矯風
衛生
各種團体の活動

【村是實行の效果】 村是制定後村民は一致共力之が實行に努力し、よくその成績を擧げつゝあり。乃ち吏員の養成訓練をなしては信望ある吏員を出し、事務の整理を行つては村治の能率を擧げた。選擧は全く人物を本位として圓滿穩健の議員を選出し、納税の如き明治四十年税務監督局長の表彰をうけたるを始めとして前後數回の表彰をうけるに至つた。小學校は尋常小學校、尋常高等小學校の二校を有し、補習教育社會教育亦實績顯著である。産業上に於ては村農會實行組合、地主會産業組合、耕地整理組合等の諸會合を設けて鋭意産業の奬勵改善に資した。道路の改修は特に力を致した結果、里道も全く縣道に劣らぬ良道となり、その行屆いてゐる狀況は縣下稀に見る所である。衞生方面に於てもその思想普及の施設を講じ隔離病舍を建て、毎年春秋二季に講演會を開き又衞生組合を設けて自治的に衞生の道を講ずるやうにした。淳朴、質素、勤勉、儉約の氣風は全村をおほふの狀態となつた。

【縣及內務省の表彰】 着々實效を擧げたことが縣及內務省の認むる所となつて明治四十二年一月四日附を以て縣の表彰を受、ついで、內務省より優良町村として表彰をうけた。

【朝鮮面官吏の實地視察】 大正十二年朝鮮面吏本村に來り居ること數ヶ月、親

しく本村の實況を視察研究をして歸つた。

猿島郡

沿革

本郡は廢藩置縣の際印旛縣の管する所であつたが、明治八年五月茨城縣の管轄に入る。明治二十九年四月當時の西葛飾郡、猿島郡を合して現在の猿島郡と稱するに至る。而して明治三十一年四月には千葉縣東葛飾郡の一部を本郡森戸村長須村に、又本郡中川村の一部を千葉縣東葛飾郡に編入交換し、更に明治三十九年六月栃木縣下都賀郡野木村大字野渡を本郡古河町に編入して現在に至る。

地勢● 廣袤● 人口● 戸數

本郡は縣の西端に位し、南は利根川を隔てて埼玉縣北葛飾郡及千葉縣東葛飾郡に相對し、西は渡良瀬川を狹みて埼玉縣北埼玉郡に、北は栃木縣下都賀郡に、東は本縣結城、北相馬の二郡に接す。地勢西北より、斜に東西に延び、土地平坦にして丘陵なく、寧ろ低窪に屬し沼池極めて多い。

廣袤十九方里九。戸數一萬七千八百七十六、人口十萬八千〇四十四人。

主要地

中央に境町。南部に岩井町、西部に古河町がある。境町は郡役所の所在地で、警察署、税務署がある。岩井町は平將門の遺跡のあるところとして名高く、古河町は本郡第一の都會で又戸數の多いことは本縣第一といはれてゐる警察署を置く。

教育

中等學校は古河町に町立實科女學校がある。小學校は全郡を岩井、境、幸島、古河の四部會に分ち、學校數は尋常小學校三、尋常高等小學校二十七、分教場十四、學級數三百三十一、職員三百十九、兒童一萬八千三百六十四。

交通

鐵道の本郡を通ずるものは東北本線だけで、古河の一驛があるばかり。

自働車は境●古河間、境●結城間、岩井●水海道の三線がある。

汽船は古河東京間を往復して古河町、境町にその發着所がある。尚古河●栗橋間には自動艇を運轉して渡河の便を圖つてゐる。

物産

物産の主なるものは米麥甘薯煙草茶繭生糸酒醬油等で、就中茶は猿島茶と稱し

て輸出品として名あり。多く南部及西部に栽培される。繭、甘藷は全郡に亘りて生産され、生糸は主として古河町を中心とする。

主要案内

古河驛

古河町　本縣西部の都會女學校がある。

古河城趾　西南へ十五町

賴政神社　古河町にあり

熊澤蕃山夫妻の墓　東南へ二十町、勝鹿村鮭延寺にあり。

境町　東へ三里、猿島郡役所の在る所。

常總線水海道驛より

岩井町　本郡南部の都會、平將門の僞宮のあつた所

古河驛

古河町　本縣西南隅の一都會で、栃木縣、埼玉縣に近く、三縣文化の接觸地となつてゐる。戸數二千八百三十、人口一萬四千六百二十七、戸數の多いことは本縣の第一位を占めてゐる。町立實科高等女學校、私立盈科學校がある。古の古河公方の居つた所であることは有名なことである。

古河城趾　古河町の西端にあつて、下河邊氏始めてこゝに城を築き、數世相繼ぎ、後足利成氏この城によるに及んで名聲振ふに至つた。爾來十數代を經て土井氏の居城となつた。今や昔日の砦壘塹濠概ぬ田甫となり刀水の流に陷りて僅かに往時を追懷し得るゝも、一度利根の長堤に立ちて四方を覩る時は

その規模の如何に大きかつたかを思ひ見ることが出來よう。

頼政神社　古河町にあり。源頼政を祀る。頼政の宇治に於て自刃するや、その臣下河邊清恒その首級を笈に入れて下總に歸りこの地に葬つたと言ひ傳へてゐる

光了寺　古河町を去る東へ一里新郷村にあり。建保四年の創立で、寺に源義經の鎧、靜御前の舞衣、その他稀代の珍品寶物を藏しておく。

熊澤蕃山の墓　驛を東南にはなるゝこと約二十町、勝麻村鮭延寺にあり。本堂の傍を過ぎて杉の森陰深き處に石欄に圍まれて二基の墓石がある。これが蕃山及その室矢部氏の墓である。碑面には熊澤息遊軒伯繼と刻す。蕃山年十六にして備前侯池田光政に仕へた。後備前の重臣として樞機に參與したが。政治上の得失を上表するに及んで、眞情君意に忤ひ、和州郡山に禁幽せられ元祿四年八月經綸を實用に施す能はずして空しく此の地に歿す。ついで儒禮を以てこの地に葬られたのである。

境町　古河驛より東へ三里余り、自働車の便あり。戸數八百四十一、人口四千三百七十七、猿島郡の中央に位し、郡役所の所在地である。利根川に沿ひ往時北總北、陸地方と江戸との舟楫の要津であつた。今でも尚汽船によつて東京との交通となす。

水海道驛

岩井町　水海道驛から東へ三里余り、自働車の便あり。猿島郡の南部の都會で、戸數八百六、人口四千二百八十。附近に平將門の古蹟あり。次にその二三を述べよう。

國王神社　岩井町から弓馬田村に通ずる路傍にあつて、大己貴命を祀る。將門戰歿の所であるといはれてゐる。祠中に鬼神丸と稱する無銘の大刀及舞刀、鏡、古扇等を藏す。一說にこの神社は將門を祀るともいつてゐる地方の人尊信すること甚し。

富士見の馬塲　岩井町より北、七重村に到る途中にあつて、將門の調馬をした所と傳へられる。

島の藥師　延命寺內にあつて、將門の守本尊として、その在世當時は非常に信仰したといはれてゐる。

又私立育成學校があつて修業三年の中等敎育を施す

北相馬郡

沿革

本郡は往古相馬郡と稱し、利根川の南北に跨る大郡で、維新後新治縣に屬して居つた。明治八年に新治縣が廢されると仝時に仝郡は南北に二分され南は千葉縣の管下に入り、北は本縣の管地に入ることゝなつた。明治十一年郡區編制に際し北相馬郡と改稱して今日に至る。

地勢廣袤・人口戶數

本郡は茨城縣の南端部で、東は稻敷郡に連接し、西は結城、猿島の兩郡に接し

南は利根の流水を隔てて千葉縣東葛飾郡及印幡郡に相對し、北は小貝川を挾んで筑波郡に對す。四境は環らすに江水を以てし、東西六里三十四丁、南北五里十丁、面積十一方里、地勢は概ね平坦で地味肥沃農業に適す。戸數九千十一、人口五万八百九十二。

主要地

取手町は郡の中部利根川の畔にあり、北相馬郡役所並に警察署の所在地、常磐線より本縣に入る第一驛である。守谷町は西部の中心地で、平將門の故趾として有名な所、布川町は東部の要地である。

教育

中等程度の學校としては井野村に北總實修學校がある。二町六ケ村組合の設立にかゝる。尋常小學校二、尋常高等小學校二六、分教場二〇、職員百七十六人學級數百七十、兒童數七千九百四十七。

交通

鐵道には常磐線常總線の二線がある。常磐線は利根川の鐵橋を轟かして本郡に入り取手驛につく。次いで郡の中部を北に走つて藤代驛となり。新治郡に入る。常總線は取手驛より西北に分岐して北の方眞壁郡下館驛を終點とする私設鐵道であるが、この線は殆んど本郡西半部の中央を貫通して交通運輸上の便宜を與へてゐる。停車場は取手驛より順次寺原、稲戸井、守谷、小絹、門倉の各驛となり、汽車はついで結城郡に入る。汽船は利根川に浮べられて、取手、野木崎稲戸井村戸頭、井野村小堀、布川町等にその發着所がある。そして東京方面、

銚子方面及霞ヶ浦方面との交通運輸の便をはかる。

物　産

本郡の主要物産は農産物であつて、米、麥、繭がその最たるものである。次は清酒、醬油、生絲、水産物等である。

主要案内

取手驛

取手町　北相馬郡役所の所在地。　北總實修學校　約十一丁西にあり。

長禪寺　驛より二丁。　岡堰　小貝川にある本縣治水上重要な堰で、驛より一里五丁、寺原驛より十五丁。本田重次兄弟の墓　西へ約十一丁

稲戸井驛

間宮林藏先生の墓　樺太を探檢した世界的の偉人、驛より二十町。

三佛堂約二丁。　岡堰　驛より十八丁。

守谷驛　小絹驛

平將門の館趾　東北へ十一丁。　一言主明神　西へ一里半。

常磐線　佐貫驛

平國香墓　驛より約八丁、川原代村安樂寺にあり。

龍ヶ崎線　龍ヶ崎驛

蚊綱神社　驛より二里弱、文間村大字立木にあり。

取手驛

取手町　この地は舊下總國に屬し、今は北相馬郡役所の所在地である。下館、

取手を連ねる常總線はこの驛を分岐點とする。奈良漬はこの町の名產である。附近の著名なものには次のやうなものがある。

長禪寺　本町大字取手にある名刹で、驛を去ること約百米の東にある。承平元年平將門の創立で、慶安年間には德川將軍から章書を與へられてゐる。相馬八十八ヶ所の本地で、地藏尊及觀音大師のお堂もあつて參詣人が常に絶えない。

北總實修學校　驛より西、約五百五十米、井野台にある通年制實業補習學校である。二町六ヶ村組合の經營で、大正十一年に創立したもの、高等小學校卒業程度の者を入學させ、男子は三ヶ年、女子は二ヶ年で卒業、その上に各一ヶ年の研究科を置くから、實質は甲種の實業學校と殆ど變りがない。農事相談所、實物表示の揭示場、地方實習地、地方實際家の指導等の社會的設備も實績を擧げ地方農事の促進に貢獻してゐる。

本多重次兄弟の墓　井野村大字井野の本願寺内にある。重次は德川廣忠、家康に歷仕し、屢〻戰功を立てたがかつて家康の勘氣を受けて本郡に移り、慶長元年この地に卒去した。弟の重玄も亦家康に仕へて戰功があつた。永祿元年三河の寺部城を攻めるに方り、先登の功を樹て、戰死した。享保年間に遠孫墓を本寺に修築したものである。

育英學舍　山王村にあり、高等小學校卒業生を收容す、修業年限二ヶ年の私立中等學校である。

平國香の墓　佐貫　龍ヶ崎　佐貫驛より約八丁、川原代村安樂寺内に一小塚がある。常陸の大

椽平國香はその塚上の五輪の石塔下に永眠してゐる。

蚊網神社　龍ヶ崎驛から約二里弱。文間村大字立木にあつて、祭神は水波能女命、塡山比賣命である。文武天皇二年の創始にかゝり、延喜の制には之を式内に列した。慶長九年大將軍德川家康は圭田五十石を寄進し、享保元年八月正一位となつた。明治四年には鄕社となり、靈驗顯著な神として近鄕の信仰があつい。

寺原驛

岡堰　寺原驛から約十五町、山王村大字岡地先の小貝川にある、今から三百五十余年前、弘治、永祿年間德川幕府令して土堰を築き、灌漑の便に資し、爾來之が改修と續行した。現在の堰は明治三十二年に築造したもので、その灌漑區域は山王村外二町五ヶ村實に二千町歩に達し、堰内の面積も亦約三十六萬坪に及んでゐる。堤上の櫻樹數百本、春時の芳花となり、夏時の綠蔭となり、地方人士。風流墨客享藥の巷をなす。この堰は上流の岡堰●下流の十余田堰と合せて小貝川の三堰と稱られ、本縣治水上の問題として重要視されてゐる。

稻戸井驛

佛堂　驛から約二町ばかり、稻戸井村大字米の井にあつて、彌陀菩薩を安置する。創立の年度は分明しないが、本尊は佛師運慶の作にかゝるものと傳へられてゐる。明治二十一年内務省から該堂の保存資金を下付せられた。

守谷驛

平將門館趾　守谷町守城内にあつて、驛を去ること東北に十一丁ばかり、平將軍將門之を築き、その後裔相馬氏がこの舊趾によつたと傳へてゐるが今は殘さ

れるある土壘のみがその當時の俤を偲ばせてゐる、

茨城大觀終り

大正十三年三月廿四日印刷
大正十三年三月廿六日發行

【定價金壹圓】

編輯者　茨城縣教育會
水戸市上市八幡町
右代表者　松浦龍

水戸市上市東柵町八番地
印刷兼發行人　小池幸太郎

水戸市上市北三之丸百廿番地
印刷所　茨城大觀印刷所

發行所　茨城縣教育會
振替東京一八〇〇九番

茨城大觀

清酒
洋酒
醤油

問屋

茨城縣古河町

坂長本店

佐藤洋之助

電話五十五番
振替東京三八一〇番

古河名物
最上奈ら漬
製造元

化粧樽詰
御進物用調製

同

坂長支店

町

電話百三十一番

旅館
料理

茨城縣稻敷郡龍ヶ崎町

和久家

【電話一六番】

店主 河田幸三郎

旅館
料理

茨城縣稻敷郡龍ヶ崎町

山田屋

【電話一九番】

店主 矢口豊吉

御旅館

御料理

町生麻郡方行

大黒屋

【電話十八番】

行方郡麻生町

旅館
川魚料理

潮月樓

【電話十五番】

通運丸
銚子丸

汽船發着取扱兼營

一度は
健康地・遊覽地としての
霞ヶ浦へ！
ポプラの綠深き水鄉の麻生へ！

製品科目

汽罐。 汽機。 石油發動機。 各種喞筒。
製材機械。 製糸機械。 蒸汽消毒機械。
其他諸機械各種鑄物製造。酸素鎔接並ニ切斷。

茨城縣猿島郡古河町

川島鐵工場

主 川島新松

【電話一三八番】

體育用具
各種運動用具
武術用具
各種服裝

撓まざる改良は
他の追從をゆるさざる

逸品揃

茨城縣稻敷郡龍ヶ崎町

フチタ運動具店

【電話二番】

親切第一

山水明媚四通八達鮮魚豐富

陸海軍御用旅舍

蒲燒御料理

瀧船取扱

水郷● 行方郡牛堀 千歳屋

種豚ヨークシア種● バークシア種
山羊ザアネン種

茨城縣行方郡香澄村大字永山

香澄農園

園主 方波見薫

振替東京四九八七九番

電信略號 (カ)

茨城縣行方郡香澄村養豚組合

種豚 肥育豚 各種 組合長 方波見薫

書籍雜貨
文房具類
理科器械
漆器紙類
乾物疊表

茨城縣稻敷郡江戸崎町

大國屋

鴻野善造

【振替口座六九五二番】

御旅館 御料理

茨城縣稻敷郡阿波村

大杉神社前

亀屋旅館

店主 平山啓助

慶安四年創業

旅館

紙屋本店

第十一世

五十畑五郎右衛門

茨城縣古河町●電話三六番

陸軍用旅舍
茨城縣指定
各國商人定宿

茨城縣古河町

村澤安太郎

電話三八番　電報(ヤルマ)

平麥ノ大王

ホシノ國益麥

◇茨城縣は東洋第一の麥産地なり

品質拔群　衛生經濟

◇白くて味のよい白米代用品

茨城縣古河町

製造元　星野豊次郎謹製

電話二〇四番振替東京五八六二

學校衛生は教育上の重大問題にして其缺陷を補ひ兒童生徒の心身の發達を全からしむることは目下一大急務であると思ひます此の机腰掛高低自在器は其の要求に應じて生れ出たものでありまして本器は机腰掛の高低を自在に調節し得る裝置で而も取付運用頗る簡易且つ耐久力に富み價格又甚た低廉なれば設備容易にして其効果は尠くないことゝ信じます

小學校
兒童用

日本式机腰掛高低自在器

新案出願中

机腰掛高低自在器

兒童用机腰掛ノ高低ヲ自在ナラシメ兒童ノ身長ニ適合セシムルハ教授衛生改善上現下ノ重要問題タリ此秋ニ際シ簡便ニシテ堅牢ニ而モ價格低廉ナル本器ノ發明ハ教育上多大ノ効果アルモノト信ス

茲ニ所感ヲ記シ汎ク本器ノ使用ヲ推奬ス

大正十二年八月廿一日　茨城縣視學　松浦龍

尚各郡視學各小學校長ノ推奬ヲ賜ハル希くは實物御使用の上御高評を賜はらんことを

製造發賣元
稲敷郡龍ケ崎町
菅原體育機械店

◇營業科目
體操器械一切
運動器具
西洋家具
椅子テーブル
書棚陳列棚
簿記臺各種

茨城縣稲敷郡阿見村
和洋酒類
日用品
雜貨店
阿見商會

茨城縣稲敷郡舟島村
共
舟子製糸場
電略フナ

茨城縣稲敷郡江戸崎町
茨城縣廳指定旅館
御旅館
御料理
切半號
渡邊偃太郎

茨城縣龍ケ崎町停車場前
旅館
森田屋
店主　川村勇助
森田屋自働車部
龍ケ崎町
江戸崎町
間乘合往復數回

茨城縣稲敷郡江戸崎町
旅館
鈴木屋
鈴木印刷部
公文館
新治郡土浦町大和町
鈴木印刷分工場

各種自轉車販賣修繕
車體及二三輪車製作
石井自轉車商店
水戸市東柵町
水濱電車終點郡役所前

蒸汽鑵、製絲機械
汽機、製材機械
鐵塔及タンク、酸素熔接
各種ポンプ、ゴムベルト
各種壓搾機、各種鑄物製造

茨城縣古河町

小池鐵工所

電話一三六番
振替東京五五〇三七番

茨城縣古河町

木材問屋

油鐵本店

電話一四五番・二一七番
電略（ア）又ハ（アテ）

支店所在地

東海道線靜岡市傳馬町　木材卸
新潟縣村上町　製材卸
福島縣磐越線上戸驛前　製材卸
（ツ）取引店　木材卸

◇阿見飛行場見物には是非共
富貴丸へ御乘船を願ひます
旅客 貨物 富貴丸 木原より阿見飛行場を經て土浦行定期航路
茨城縣稻敷郡舟島村大字舟子
舟子倉庫運送株式會社
穀物賣買するなら舟子特定倉庫へ!!
特定倉庫 當倉庫内に特設せる同倉庫は毎月三回五の日共同販賣を行つてゐます
◆買ふなら……品質優良なる
當地米を試食して下さい
◆賣るなら……割高販賣になる
當倉庫を利用下さい
◆共に茨城縣下第一の賞讃を
得てたります

茨城縣稻敷郡朝日村大字荒川沖
合資會社 岡谷製絲會社第二支店
共 岡谷舘製糸場
電話 壹貳番
電信略號【カヤ】

茨城縣稻敷郡木原村
旅館 料理 川岸屋
店主 葉梨協太郎
東京通船株式會社
旅客貨物取扱所

茨城縣稻敷郡江戸崎町
株式會社 三協銀行江戸崎支店
主任 來栖彌太郎
坂本茂左衛門

最上醬油

印シヒウヤジ

○上菱印醬油ハ獨特ノ香氣風味ヲ有ス
○上菱印醬油ハ本縣ニ於テ釀造高最モ多シ
○上菱印醬油ハ各博覽會及品評會ニ於テ最高賞牌ヲ受領ス

釀造元　茨城縣稻敷郡鳩崎村
上菱合資會社

本館を利用し得る者は
幸福なり

茨城縣潮來町
敬文館印刷所

東京市外下落合五八九
敬文館印刷所

北相馬郡相馬町藤代

武田藥局

藥劑師 武田志朗

各國產漆器工藝品專門

漆器卸商 加納屋號 伊藤漆器店

茨城縣北相馬郡取手町

振替口座東京五六五二七番

最上醬油

（フンドウタカラ）

茨城縣藤代

杉澤釀

味淋粕製

名產

奈良漬

製造元 下總取手町 宮田商店

博覽會共進會 各賞牌受領

取手名產

奈良漬

製造元 下總取手町 新六本店 田中新次郎

振替口座東京五八七六番

電話取手六番

和洋御料理 仕出し

茨城縣取手町

新六亭

電話十七番

店主 田中林之助

例祭日　五月　八日
　　十月　二十七、二十八日

茨城縣稻敷郡阿波村

大杉神社

千葉縣郡停車場ヨリ約一里半
自働車ノ便アリ

○優良種豚責任分讓

◇立川養豚場移入直系ヨークシャー及びバークシャー種育成販賣
◇肥育用仔豚育成販賣
◇生豚の共同販賣
◇種豚には本組合の確證たる血統證を添附致します
◇肥育用仔豚には顧問獸醫の健康證明書を添附致します
◇何卒多少に拘らず御注文の程願上げます、

詳細は組合事務所へ御照會を乞ふ

茨城縣行方郡八代村大字上戸二一五ノ一

八代村養豚組合

銘酒　大正　釀造元　行方郡牛堀　山口逸作

常州行方郡八代村芝宿
旅館　御料理　清水樓
特に霞浦名物御蒲燒の需に應ず

行方郡玉造町
御旅館　御料理　稻新樓
【電話一四番】

茨城縣北相馬郡取手町
星製藥郡元賣捌所
藥劑師 關谷二郎
電話一三番
振替東京三〇六九〇番

關谷商店

醫家處方調劑
藥品醫療器械
有名賣藥染料
度量衡計量器
洋品雜貨一式

○清酢釀造並各國和洋酒類販賣商
近江屋號
茨城縣取手町
電話三一番
振替東京九七七一

杉澤由之助商店

月桂冠
キンシ正宗
キリンビール
金線サイダー
特約店

茨城縣稻敷郡江戸崎町
和洋料理

藤井樓旅館

藤井自働車部
主任 市川菊次郎
（江戸崎龍ケ崎間乗合）

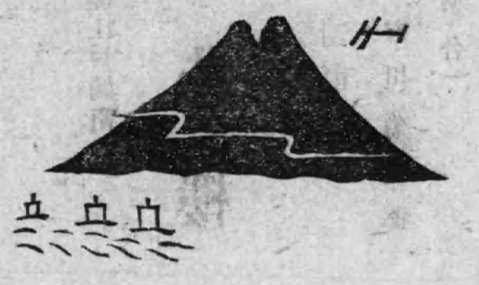
香取鹿島潮來
水郷廻遊御案内所
諸官廳御指定旅館

角菱旅館

角菱船舶部
常陸水郷潮來
電話一八番
電略（カ）又ハ（カト）

空氣和かに氣候溫かな

關東一の發展地



東洋第一の飛行場は
清冽な霞ケ浦に
世は海から空に
國防は艦から
飛行機に
三十年前の小漁村
今は横須賀市
秀麗な紫峰筑波は
國立公園に

霞ケ浦土地株式會社

【茨城縣稻敷郡阿見】

博覽會共進會品評會
登錄商標
優等清酒
一等賞金銀賞牌受領

麦友

醸造元

一手捌　千葉縣銚子町　植田要助
專賣店　同縣　同町　山角定吉
一手捌　茨城縣麻生町　飯高康達
同縣　土浦町　青木源次郎

茨城縣行方郡津知

兼平友壽

電話潮來二番
振替東京三二二七番

水戸市南町

株式會社

常磐銀行

資本金壹百萬圓

株式會社 常磐貯蓄銀行水戸支店

水戸市南町

電話一三三・九四三番

【特色】

本行は堅實を期する爲め株主配當をなさず總て積立金とす

下市支店　湊支店
大子支店　鉾田支店
龍崎支店　土浦支店
高萩支店　太田支店
磯濱支店　下館支店
岩瀬支店　下妻支店
黒子支店　水海道支店
守谷支店　岩井支店
谷原支店　石下支店
三妻支店　荒川沖支店
馬口勞町支店

【支店】

富澤町　神樂坂　京橋　銀座　神田　本所　押上　淺草　番町
丸之内　八王子　下谷　王子　横濱　芝

◆資本金壹千萬圓（拂込濟）
◆諸預金壹億九千五百八十四萬八千百八拾五圓
◆積立金及繰越金七百六拾四萬五千圓

東京市日本橋區檜物町

株式會社 川崎銀行

頭取 川崎八右衛門

水戸支店　京都　西陣　二條　三條　五條　大阪　大阪西
石岡支店　神戸　千葉　佐原　銚子　佐倉　松戸　船橋

【文化創業】

登錄 商標

文華

ワクンブ

【名聲布四海】

醸造元

茨城縣潮來町

遠峯良之助

【電話一四番】

旅館

和洋料理

茨城縣稻敷郡江戸崎町

前警察署

飯野屋

主店 飯野由太郎

各官衙學校御用達

茨城縣稻敷郡江戸崎町

製造發賣元

枠屋號

清原德次郎

營業品目

□椅子テーブル机腰掛類

書棚陳列棚

□体操器械運動器具一式

□和洋家具 其ノ他各種

FINEST BYEWINS

最上味噌

茨城縣取手町

成島味噌釀造元

最上醬油

登錄

サギカ

元造釀

茨城縣潮來町方郡

榊原吉右衛門

【電話三〇番】

最上

登錄

標識

醬油

サリイ

元造釀

茨城縣行方郡津知村

【天明元年創業】

商號

澤屋

【電話潮來八番】

霞ヶ浦、西北浦両沿岸旅客貨物輸送
利根川江戸川曳船及東京間貨物輸送
茨城縣稻敷郡江戸崎町
江戸崎瀛船株式會社
取締役社長 關口直太郎
東郷豊次郎
荻野安太郎
來栖彌太郎
坂本茂左衛門
磯目平太郎
臼田寅造
西村金次郎

御旅館
和洋料理
茨城縣稻敷郡江戸崎町
建利樓
店主 德田德藏

常磐病院
水戸市上市黒羽根町

内科顧問 醫學博士 八田善之進
産婦人科顧問 醫學博士 川添正道
外科部長 醫學博士 井上重喜
内科部長 醫學士 山田靜榮
皮膚科泌尿科部長 醫學士 萩原省三
小兒科部長 醫學士 小柳義雄
産婦人科部長 新潟醫學士 久須美震一
耳鼻咽喉科部長 千葉醫學士 高木浩一

外科副部長 日本醫學士 小泉富衛
醫員 新潟醫學士 石川正男
醫員 千葉醫學士 阿久津宏一
醫員 東北醫學士 小林四五右衛門
醫員 日本醫學士 蘇原近三郎
醫員 日本醫學士 山崎義忠
醫員 日本醫學士 池田曉
藥局長 藥劑師 菅谷孝

笠間稲荷神社年中行事

歳旦祭　一月一日
元始祭　一月三日
祈年祭　二月十四日

例祭　四月九日
大祓　六月三十日
全國煙火競技會　九月中

新嘗祭　十一月廿二日
献穀祭　十一月廿三日
大祓　十二月卅一日

玉かへ　舊正月元旦
午祭　舊二月初午日
霜月祭　舊十二月十五日
節分祭　節分ノ日

登録商標 水

梅羊羹
水戸の梅
のし梅
吉原殿中
井熊羊羹

◇各博覽會の賞牌が證明する井熊の製品!!

◇ニセモノあり○水商標に御注意を乞ふ!!

井熊製菓株式會社

本社小賣部　水戸市南町
【電話六〇五番】

第一工場　水戸市幸町
【電話七七八番】

第二工場
營業所
事務所　水戸市門町
【電話〇〇七番】

【振替東京四三六一四】

茨城電力株式會社

【水戸市北三ノ丸】

【電話四・六・三六八・七四〇番】

支店　多賀郡松原
營業所　西茨城郡笠間町
同　眞壁郡下妻町
同　結城郡結城町
配電所　久慈郡太田町
同　那珂郡湊町

專務取締役　前島平

御旅館

常陸國笠間町

惠比壽屋嘉兵衛

電話　本店五番　驛前支店二二番

井筒屋彦兵衛

電話　本店二番　支店三番

茨城縣那珂郡湊町

最上醬油甲西醸造元
西野仁兵衛
【電話十一番】

清酒福住連醸造元
宮内庄兵衛
【電話十番】

御頭味噌醸造元
柴田長次衛門
【電話卅二番】

清酒喜久一醸造元
菊池兵四郎
【電話十四番】

リ印刻昆布大黒印乾麺製造
宮崎利七
【電話二七番】

常陸那珂湊海岸
海水浴旅館 電話三七番
惠比藤
御宴會並に修學旅行團体等は特に大勉强仕候間何卒御用向仰付られ度候

常陸那珂湊海岸通リ
御旅館御料理
高安
【電話二十八番】

崇陸那珂湊海岸通リ
御旅館御料理
水港館
【電話四十一番】

外科顧問 醫學博士 鳥居武雄
同部長 日本醫學士 鈴木庄作
産婦人科部長 岡山醫學士 江幡保
院長 眼科部長 江幡保男
副院長 愛知醫學士 澁谷壽

水戸 **江幡病院**
【電話二〇九番】

營業品目
吳服 洋服 化粧品 神官裝飾
太物 袋物 子供服 染物一式
洋物 玩具 文房具 商品切手

水戸市本一丁目電停所
井金吳服店
電話一六番七二二番振替東四二一三

賜天皇陛下獻上之榮

於各博共進會金銀賞牌受領

賜閑院宮殿下獻上之榮

御菓子舗

水戸

寶月堂本店

田中福松

【電話五二九番】

南町

寶月堂支店

內科●外科●婦人科●花柳病科
耳鼻咽喉科●X光線科

新治郡土浦町

新治病院

【電話一七九番】

院長醫學士　來栖光一

（入院隨時）

內科

特ニ呼吸器病科

筑波停車場ヨリ約四丁登ル

筑波山病院

醫學士　來栖光一
醫學士　鈴木千學

入院隨時入院案內書申込次第送ル

は際の上買御を庫金

の一第邦本

大倉製品を

東京大倉金庫
茨城縣代理店

茨城縣土浦町本町八二六

寺田文次郎商店

土浦郵便局私書箱第五號

電話 土浦一〇八番

振替東京一五六二四番

◇目錄御入用の際は御一報次第送ります

資本金六百拾萬圓
諸積立金八拾七萬圓

株式會社

土浦五十銀行

【茨城縣新治郡土浦町】

水戸上市南町支店
同 下市本五丁目
同 馬口勞町支店
筑波郡北條町支店
同 上大島出張所
同 谷田部町支店
同 上郷村支店
同 豊村支店
結城郡石下町支店
稲敷郡江戸崎支店
同 龍ヶ崎町支店
同 町上町出張所

行方郡麻生町支店
東茨城小川町支店
北相馬郡取手支店
久慈郡太田町支店
同 町山下出張所
眞壁郡下館町支店
新治郡石岡町支店
同 町金丸出張所
鹿島郡鉾田町支店
同 鹿島町支店
千葉縣安食町支店

旅館

茨城縣土浦町川口

土浦館

染谷かれ

【電話二八番】

茨城縣土浦町

電話土浦五三番
銚子一六一番

石炭
製油

竹中廣次郎

振替東京三六一九三番

其他菜種胡麻油粕製造販賣仕候

賜光榮宮内省　各宮殿下御買上

◇霞浦◇

櫻えび　煮ぼし
大ねぶ　佃煮
しら魚　焼公魚
鯉　鮒　鰌　鰻
すつぽん
其他鑵詰品外公魚の粕漬は弊店の特製に有之候

◇名産◇

茨城縣土浦町停車場通リ武藏屋

鈴木藏之助

【電話二二五番】

【大正十三年一月現在】

資本金　拾萬圓
積立金　九拾萬圓
諸預金　壹百五拾萬圓

茨城縣土浦町
（大和町停車場通り）
土浦三津輪銀行
【電話三〇番・五八番】

資本金七拾五萬圓
明治廿九年創立
株式會社
土浦農商銀行
支店及出張所
石岡　小田　藤代　柿岡　眞鍋
土浦　川口　北條　高濱　水海道

茨城縣土浦町
櫻井旅館
【電話三十九番】

土浦名物海老煎餅櫻羊羹本舗
御菓子● 麵麭類各種
洋菓子● 食料品鑵詰
登錄 光月堂
商標
影山平助商店
本店 茨城縣土浦町電一五四番
出張所 仝停車場通電話二二〇番
東京支店 本郷區八重垣町十八番地

茨城縣土浦驛前
鐵道院指定
旅館相馬館
料理部 一力
藝妓部 松乃家
【電話一三九番】

最上醬油
醸造元
茨城縣石岡町
濱平右衛門
【電話石岡三番】

下館町停車場通

茨城縣指定
陸軍指定
鐵道省指定
旅館 堺屋號 北嶋庄夫

【電話三十番】

土浦本町

岡本米穀肥料店

電話（三三番 二四八番）

本浦停車場構內

霞浦砂利株式會社

【電話六十二番】

土浦町川口

電話 六五 岡本濱船荷扱所

【午前】
五時 鹿島行
九時半 銚子行

【午后】
十二時半 江戸崎行
二時 玉造行
三時 鹿島行
四時 江戸崎行

筑波山

西に富士
東に筑波
關東平原
直立三千尺
展望風景
絶佳!!

筑波鐵道株式會社
【電話土浦二四〇番】

茨城縣土浦町櫻橋際
松庄旅館
中島庄兵衛
【電話十番】

茨城縣那珂郡大宮町
肥料
内外商
小菅商店
大宮出張所
茨城縣那珂郡大宮町北三丁目
銅鐵鋼打刃物
建築用品各種
パリカンハサミ
剃刀鐵器鐵瓶火鉢ポンプ商
萩谷道之介
電略（ハギヤ）

茨城縣那珂郡大宮町
日本生命保險
日本徴兵保險
常陸大宮代理店
主幹 鈴木英次郎
電話三四番
振替東京六七一〇番

生繭取引全國一ノ
土浦繭絲市場
土浦ノ代表的築建
豊島百貨店

關東燃料株式會社

啓成炭礦株式會社地方元賣捌店
採炭株式會地方賣社捌店

東京瓦斯コークス販賣株式會社
茨城青森縣下元賣捌店

銀行一般業務誠實ニ取扱仕候

株式會社 石岡銀行

電話石岡壹番 倉庫部一〇九番

柿岡支店
岩間支店

頭取 閼操
專務取締役 島田芳之助
仝 矢口政次郎
取締役 青柳政兵衛
仝 植田榮七
仝 菊地利兵衛

◎陸海軍々用旅舍

茨城縣石岡町

はし本旅館

館主 小林平八

長電話二十一番

畏クモ皇族殿下
御旅館ノ光榮ヲ蒙リ申候

常陸石岡驛前

旅館 七會屋 押見金太郎

電話特【百〇四番】

新治郡高濱町

白菊醸造本家 廣瀬慶之助

【電話 二十七番】
【振替東京三五〇七】

書籍
文房具
印刷業

茨城縣土浦町仲城町

伊沼書店

【電話二一七番】

東西四海一家の心もて
宛然故郷に在る如き思
あらしむる弊館の
大家族主義

世の中は相見互
見よき樣に
土浦電話も
二四九(ふたりよく)と呼ぶ宿

茨城縣下館町停車場前

茨城縣
指定旅館
兼御料理

廣澤ヤス

電話 三十六番
七十二番

總給付金契約高四百貳拾萬圓餘
大藏省
免許

蓬來無盡株式會社

茨城縣下館町四一四番地
電話百七十九番
振替東京一七二五五番

最上醸造元
茨城縣下館町

醬油

井川醬油株式會社

電話二百十三番
振替東京五七六九三番

下館町田町
みますや本店
【電話七三番】

御旅館
和洋
御料理
仕出し
（呼出）【電話七三番】

みますや支店
下館町新坂通

下館町旅館

大町郵便局前
新巴片平喜平次
電話三十三番

茨城縣指定旅館
田町
新小嶋
電話百三十三番

金井町
島屋秋元卯三郎
電話百二十六番

下館町【電話二四四番】
下館病院
顧問醫學博士 長町穆
院長 外科 宮田量之助
副院長 内科 山崎清作
藥劑師 羽田はる

下館町【電話百四十番】
産科
婦人科
下條病院
内科 産婦人科
花柳病科 院長 下條豊

下館特産

全國ニ冠タル堅牢無比ノ石底
年産額金貳百万圓

下館織底同業組合

事務所 下館町

銘酒 常陸大宮町 玉川醸造元 海老根常之允 電話三番

旅館料理 常陸那珂郡大宮町 坂井屋號 坂佐井兼吉 電話三十一番

茨城縣那珂郡大宮町三丁目 書籍雜誌 文房具類 度量衡器 黑澤熊藏 振替東京三九四〇四番 電話三十二番

株式會社 笠間銀行大宮支店 電略(カオ)電話二一番

那珂郡大宮町 砂糖菓子商 藤屋新吉 電話三九番

常陸國大宮町 吳服太物 染糸 肥料 伊勢屋號 佐藤伊兵衛 電話二十六番 電略(イセイ)

米雜穀和洋酒
內外諸肥料商　杉山鐵之介商店
電話三六番
南町　杉山精米部
驛前　共杉山運送部
電話三七番

茨城縣那珂郡大宮町
醬油釀造
和洋藥品
有名賣藥
壺屋號
鯉淵萬衛門
電話一一番

茨城縣那珂郡大宮町
日潮日商店
電信略名〇ヒ
電話二五番

常陸那珂郡大宮町二五四番地
株式會社常陸大宮銀行
振替東京四八六八一番
電話二〇番電略（ヒチ）

那珂郡大宮町拾八番地ノ一
茨城醬油釀造株式會社
電話一四番

常陸大宮驛前
常陽酒造株式會社
電話一〇番

眞壁郡下館町
醫師　寺本德太郎
電話六十七番

東茨城郡長岡村小鶴
星製藥株式會社特約店
日本蓄音器商會專屬販賣店
こつるのクスリヤ
天佑堂　岩田藥舗
電話小鶴零番
營業品目
計量器●藥品
小間物●化粧品
洋酒●鑵詰●眼鏡
紙類●蓄音機
樂器●セメント
電機器具一式

下妻病院

顧問醫學博士 渡邊隣二
院長醫學士 加藤岩根
【電話三二番】

茨城縣下妻町
結城木綿 柴織株式會社

請負業
土木藝業 林山組
眞鍮瓦職 下館

建築土木請負業 下館 大武多喜
驛町（大武組出張所）
【電話百七十一番】

學校建築請負業
各種木材販賣 下館 吉井喜作
町
【電話百六十一番】

眞壁郡河間村
土木建築
請負業 秋山彌惣治

◇營業品課目
菜種油、白胡麻、黑胡麻、鳥粟
白絞油、胡麻油、荏　油、麻袋

茨城縣下館町
優良煙草
肥料各種 下館製油株式會社
附屬工場足袋底製織部
純良菜種油粕 窒素 五、五 燐酸 二、二
再製菜種粕 窒素 五、二 燐酸 二、二
再製雜植物油粕 窒素 五、〇〇 燐酸 二、〇〇
◆其他粉末各種製產致シマス
各種足袋底製造販賣

茨城縣眞壁郡樺穗村
營業品目
花剛石採堀
學校建築石材
大販賣業 出川石材店

下館町役場坂上

鈴木眼科醫院

電話二百五十六番

院長　鈴木佐多治郎

下館　大町

耳鼻咽喉科

雨甲斐醫院

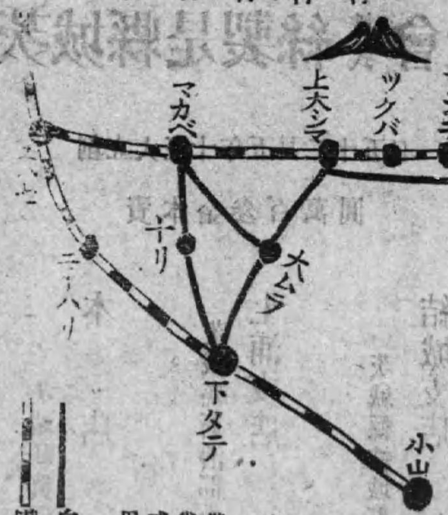
電話百十二番

院主　雨甲斐新平

乘合自働車

下館発

筑波行　北條行　關本行　結城行　眞壁行



茨城縣下館町三吉館隣

はなふさ

自働車

店主　諸岡英次

東北本線ニヨル筑波登山旅客ハ下館驛下車自働車ニ乘換ヘ僅ニ四十分ニシテ著ス

貸切車御使用ノ御方ハ一里金貳圓ノ割合ニテ何時ニテモ御用命ニ應ズ

自働車線路

鐵道線路

高等旅館

筑波郡筑波町

江戸屋

別館新築落成

ラジーム鑛泉アリ

茨城縣是製絲株式會社

創立大正十年五月二十五日

資本金參百萬圓

本店　茨城縣眞壁郡下館町丙十八番地　電一四三番

土浦支店　茨城縣新治郡中家村下高津五百番地　電話二五五番

結城支店　茨城縣結城郡結城町千八百十番地　電話七〇番

諸預り金及諸貸金其他一般の
業務確實迅速に御取扱申上候

株式會社 下妻銀行
【電話三五番】

同 宗道支店
【電話三四番】

常總線下妻驛前
內國通運株式會社取引所

下妻運送店
電略ナマ六
電話六番
振替口座三二一一八

下妻料理屋

御料理 吾妻旅館
電五二、脇田事助

御料理 栃木屋旅館
電四四番

御料理 妻本
藝妓
電七六番

和洋御料理 千鳥
カフエー トヤマ

下妻醫師團

飯塚醫院

橋詰齒科醫院

長田醫院

中岫醫院

中村齒科醫院

石濱醫院

大和田醫院

河面芳雄

中島醫院

中久喜齒科醫院

下妻町吳服商組合

佐藤吳服店		
翁屋吳服店	電話二八番	企
沼尻吳服店		六
大塚吳服店		矣
川村吳服店		會
本橋吳服店	電話二四番	長
中彥吳服店	電話三一番	命
猪又芳乙助		田

土木建築請負業

茨城縣北相馬郡取手町

岡田忠三

於博覽會品評會名譽賞牌受領

商標 松風

永田宗四郎釀

常陸下妻町【電話五番】

發着の貨物は信用確實第一の

下妻驛へ是非

御さしむけを願升

明治運送株式會社取引店

常總線下妻驛前

運送倉庫業株式會社 共運送店

電話二十七番

博覽會聯合共進會

全國品評會金牌受領

鶴の翁

常陸下妻町

下妻酒造株式會社釀

常務取締役 中島福次郎

電話一四番

茨城縣結城郡石下町

銘酒〔一人娘正宗〕〔金清〕大吟醸

醸造元

山中直次郎

電話石下〔四三〕番九番

茨城縣結城郡石下町

旅人宿

兼料理店

停車場前支店アリ　住吉屋　電話石下二九番

停車場通リ　釜仙　電話石下三七番

停車場通リ　石下館　電話石下三〇番

五家屋　小林萬作　電話石下一四番

結城郡石下町
内外材木商 生井政吉
【電話石下三番】

茨城縣結城郡石下町
秋塲織物工塲
【電話石下四六番】

茨城縣結城郡石下町
清酒天盃醸造 野村清作
【電話石下五六番】

茨城縣結城郡結城町
本塲結城織物同業組合
【電話結城七三番】

茨城縣結城郡石下町
物産織物商
廣瀨嘉兵衛
【電話石下五五番】

茨城縣結城郡石下町
内外材木商
黑川平五郎
【電話石下五三番】

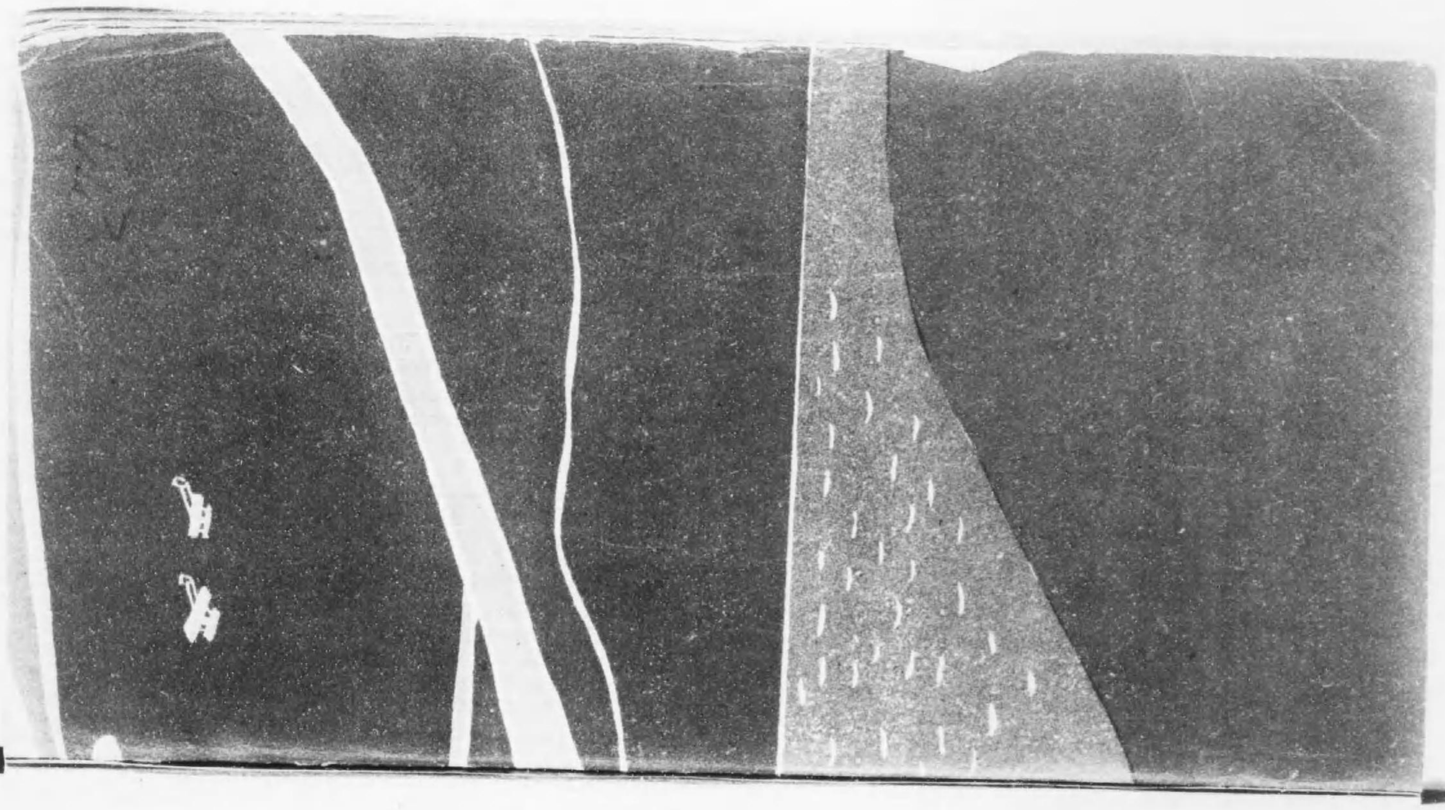
登録商標 下總國水海道町
最上醬油
荒井庄太郎 釀造

水戸春慶塗器
美術蒔繪漆器
木抔及金銀抔
諸漆金銀箔粉
御婚禮用具
タンス 長持
和洋家具指物
水戸市下市本二丁目
山城屋漆器店
久保清吉
電話四百十九番
電略(クホ)又(ク)

寫眞器ト材料 水戸市下市東柵町
噴霧器消火器
輕便ポンプ
倉持信治
電車終点

ラーヂ
自轉車
茨城縣下妻町
飯田勝太郎

大塚屋
書店
茨城縣下妻町
塚越彌平
電話 三七番
振替東京三七三四五



514
217

終